

学校の在り方地区検討委員会（中南地区）

【第2回】概要

日時：令和8年2月2日（月）

13：30～16：00

場所：弘前パークホテル4階ラ・メエラ

<出席者>

工藤貴弘委員、桑田委員、吉田委員、山内委員、須々田委員、大高委員
小山内委員、前田委員、工藤義明委員、葛原委員、木村浩委員、浅利委員
棟方委員、増川委員、小田桐委員、浅瀬石委員、笹委員
菅原委員（進行役）

代理

金枝氏（品川委員代理）

1 開会

2 事務局説明

事務局が資料1について説明した。

- 中南地区は、他地区よりも倍率が高く、第1志望の県立高校を不合格となった生徒は、私立高校に進学するといった実態がある。第1志望の県立高校を不合格となってしまう中学生が極端に多くならないような募集人員を設定すべき。

- 地区間の流出入の資料について、県立高校と私立高校を分けて提示してほしい。

3 意見交換

（1）全日制課程の学校規模・配置について

① 学校規模・配置

- 基本的に定員割れとなっている高校を優先して学級減すべきであるが、県として戦略的に残すべき学科や地区に必要な学科がある場合には、その案を提示していただき、考えていく必要がある。

- 定員割れとなっている高校を学級減することで競争率が高まり、魅力化にも繋がると考えるが、職業教育を主とする専門学科は、定員割れとなっている状況でも本県にとっては必要である。
本県の経済状況や国の動向等も踏まえ検討していく必要がある。

- 柏木農業高校は、第1志望でない生徒や、経済的理由により私立高校に通えない生徒が多く通っていた。しかし、農業教育・環境教育と、平川市や地域の農家の方々の協力により生徒が大きく成長する高校であり、卒業後は、地域産業の担い手として頑張っているため、地域に必要な高校であると考えます。
- 倍率があることで、切磋琢磨しながら勉強に励む生徒もいる。弘前高校や弘前中央高校は倍率が高いが、弘前南高校や黒石高校は定員割れが生じている。特に黒石高校の普通科に関しては、1学級分以上の定員割れとなっており、1学級減を行うことで倍率も上がり、競争する生徒も増えると考えます。
- 職業教育を主とする専門学科は、学習内容が専門的過ぎて倍率が低下傾向にあると考えます。職業教育を主とする専門学科においても、幅広い学びを提供することも考えられるのではないかと。
- 弘前実業高校農業科が設置されていた際は、農業を学ぶために進学するのではなく、部活動のために進学する生徒が非常に多かったと感じるが、実際に農業の学びに触れることで、農業の楽しさを知ることができ、農業関係の仕事に就いている人も多くいる。この地区の基幹産業である農業を学べる高校がなくなることは考えられず、学級減についても慎重にすべき。

進行役からオブザーバーである弘前実業高校の校長に対し、農業科を設置する際の課題等について説明を求めた。

- 本校は部活動が盛んであるため、部活動を目的に農業科に進学していた生徒も多かったが、農業の実習等を通して農業に興味を持つようになった生徒もあり、その中には農家の後継者のほか、農協や市場、農業資材等の農業関連産業に携わっている者もいる。

本校に再度農業科を設置する場合、以前あった農場はソフトボール場になっているため、新たに農場を整備する必要がある。1学級規模の農業科であれば、約40アールの敷地に、野菜苗や草花の苗をつくるハウス1棟と、実習ができる小規模農場を整備するとともに、柏木農業高校と連携することで対応は可能であると考えます。

40アールの敷地については、本校の近くに休業となっている弘前市民プールがあるため、その敷地を農場等にできれば教育活動を実施できるイメージは持っている。

- 農業科において、大学進学等にも対応できる教育課程を編成することで、子どもたちも様々な選択ができるようになり、農業科の倍率も変わってくると思う。さらに、生徒が志望したくなるような学校名にすることも必要である。
- 農業科や工業科などの職業教育を主とする専門学科は必要であるが、例えば、商業科であれば、中南地区には黒石高校と弘前実業高校の2校が設置されており、生徒の取り合いとなっている。この地区を1つのパッケージで考えていくのであれば、それぞれの学科に特化した高校や大学進学に特化した高校などそれぞれに役割を持たせることで、中学生も進路選択しやすくなる。
さらに、それぞれの学科の良さを総合して、1つの新しい学科を設置し、魅力を発信してその学科に子どもたちを呼び込むことも考えられる。
- 先ほど、オブザーバーである弘前実業高校から、弘前実業高校は人が集まりやすく、地域の担い手を育成するという観点で、弘前実業高校に農業科を設置するといったような話があったが、そのことについて賛成する。現代の農業は、グローバル化やデジタル化などにより変化しており、昔とは違う形の農業科を設置することで、これからの時代にマッチしていく。
弘前実業高校に農業科を1クラス設置する場合、商業科の学級減が考えられる。
- 高校の生徒数が減ることで部活動等にも影響が出る。学級減だけで全てを解決することは難しいため、高校を統合することも考えられるが、様々な課題がある。
- 第1期実施計画において、黒石高校と黒石商業高校を統合したことを踏まえると、地域住民としては学級減の対象から除いてもらいたい。

② 学校規模・配置の効果・課題

◆ 学級減（定員割れとなっている高校）で対応

- 定員割れにより学力差が広がっていることから、その解消に繋がる。
- 学級減をすれば、その高校に通学する生徒も少なくなるため、地域への影響が少なからずある。
- 小規模化することで、生徒同士の関わりが薄くなるとともに、学びが固定化されてしまう。
- 定員を満たしている高校を学級減することで、第1志望の高校に通えなくなる生徒が増えるため、定員割れの高校を学級減したほうが良い。

◆ 学級減（1学級の職業教育を主とする専門学科は除く）で対応

- 職業教育を主とする専門学科を残すことで、高校の活性化のみならず、地域の活性化にも繋がる。
- 普通科はそれなりの倍率を維持しているため、さらに倍率を高めることとなり、普通科に入学できない生徒が増える。普通科に入学しなかった生徒は、職業教育を主とする専門学科へは進学せず、私立高校へ進学するため、更なる県立離れを助長する。

◆ 学級減（黒石高校は除く）で対応

- 黒石市内の中学校から黒石高校普通科への過去4年間の進路実績を見てみると、割合として、令和3年度は17%、令和4年度は18%、令和5年度は29%、令和6年度は25%となっており、黒石市内の生徒にとって必要な高校となっている。

◆ 学級減（普通科及び専門学科で1学級ずつ減）で対応

意見なし

◆ 統合で対応

- 学級数が増えることにより、教員数が増えるため、幅広い教科・科目等が担保され、高校教育の質を確保することができる。
- 統合といっても統合対象校のいずれかが廃校になるといったイメージを持たれる。

(2) 定時制課程・通信制課程の学校配置について

意見なし

(3) その他の意見

- 農業科に限らず、職業教育を主とする専門学科を増やすのは非常にありがたい。農業科、工業科、商業科等の職業教育を主とする専門学科は自分の自由な経営ができるというのが強みである。そのようなことを発信していくことも必要である。
- 尾上総合高校における他校通級による指導や柏木農業高校での自校通級による指導を導入してほしい。

4 閉会